

前期の感想

C1081409 高橋奈々

初めてのプログラミングで、最初は自分が何をしているのかが全然理解できなかった。実行の仕方もあるやふやで、こんな状況でこれから先の授業についていけるのか不安に思ったことを覚えている。友達と一緒に課題に取り組み、どうしても分からない時には先輩方に教えてもらい、ここまでくることができたと思う。先輩方の「そのうち理解できるようになる」という言葉を信じて、プログラムと向き合ってきたら、少しずつ慣れてきて、基本的な操作は楽にできるようになったと思う。

前期の授業を受けてきて、技術面で学んだことも多いが、精神的な面で学んだことも多いと感じている。最初は全然理解できなかったプログラミングが少しずつ理解できるようになったのは、できないと諦めないで、苦手意識をなくすように向き合ってきた結果だと思う。何事にも”諦めないこと”と”向き合うこと”は大切なことであり、社会に出てからも重要視されることである。プログラミングの授業は大変だと感じているが、社会に出てから必要とされる基本的なことを教えてくれるので、とても自分のためになっていると感じている。

また協力することの大切さを実感した。一人で取り組んでいたら、ここまで頑張ることはできなかったと思う。友達と協力して一緒に取り組んできたからこそ、夜遅くまで頑張ることができたのだと思う。先輩方にも助けていただき、快く教えに来てくださったことが嬉しかった。全然理解できていなく不安になっていた私に、去年頑張った先輩方なりのアドバイスや体験談がすごく励みになった。一緒に取り組んでくれた友達と先輩方には本当に感謝している。

プログラミングの授業を受けてから、学校にいる時間が長くなった。去年は授業もあまり取って少なく、家でんびりしている時間が多かった。しかし今年は授業も多く取り、プログラミングの課題に取り組むと、家に居る時間がほとんどない。毎日が忙しく、余裕がないと感じているが、とても充実した毎日を送れていると思っている。

今回からグループでも活動が始まるが、これまでのプログラミングで協力することの大切さを学んだので、皆で協力してよい作品を作っていきたいと思う。残り少ない前期の授業で満足のいく結果が出せるように、頑張りたい。